

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 1 回 定例委員会
日 時	令和4年1月21日 自 15時00分 至 16時15分
場 所	第2庁舎1階会議室
出 席 委 員	教 育 長 五十嵐 充 委 員 佐藤 郁子 委 員 齋藤 智子 委 員 岡田 秀樹 委 員 高橋 憲司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	齋藤 智子 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 田中 真奈
事 務 局 職 員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 生 涯 学 習 課 長 林 崎 竹 亜 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 田 中 真 奈
会 議 案 件	別紙のとおり
会 議 の 経 過 概 要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（五十嵐教育長）・・・15時00分
2	会議録署名委員の指名（齋藤智子委員）
3	会議録の承認
	（五十嵐教育長） 第12回定例教育委員会（令和3年12月24日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
	（一同「はい」の声）
	-会議録どおり承認-
4	教育長の報告
	（五十嵐教育長） 本日は、急な日程変更となり、委員の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、ご出席いただきありがとうございます。改めまして、本年もどうぞよろしくお願いいたします。
	学校は、冬季休業期間が終わり、中学校は今日14日から、小学校は18日から3学期が始まっています。昨年の学校運営は、感染症対策の徹底と子どもたちの学びの保障との両立に苦労した1年でありました。今年に入り、感染者がオミクロン株により急激に増えている中、市内4校で児童生徒の陽性が確認されたことから、昨日、今日と学年閉鎖等の措置を講じたところです。若年層の感染が多くなっていますので、今しばらくは気が抜けない状況が続くと考えています。先週も学校及び保護者あてに通知を発出したところですが、今後とも、密の回避、手洗い、マスク着用、教室の換

<p>気など基本的な感染防止対策の更なる周知、徹底をしながら、学習活動の充実を図ってまいります。また、3学期の開始と同時に、新第2学校給食共同調理場の給食提供が順調にスタートしています。玉ねぎのドレッシング和え、ツナきゅうり、ゼリーと白玉和えなど副菜が1品増えた給食に子どもたちも喜んでくれているようです。</p>
<p>それでは、1月に入ってからの主な行事等について報告をいたします。</p>
<p>5日に、市議会臨時会が行われ、住民税非課税世帯と子育て世帯などへの給付金支給事業の補正予算について審議されました。住民税非課税世帯に対しては10万円を、子育て世帯に対しては5万円、既に予算化している分と合わせて10万円を支給するものです。予算案は、全会一致で可決されました。</p>
<p>9日、令和に入って3度目の成人式が2回に分けて行われました。委員の皆様にはお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。今年のお出席者は1,131人で、昨年を151人、上回りました。出席率は、77.4%と昨年の68.8%と比べ、8.6ポイントほど上昇しております。開催を延期したところが多かった昨年の成人式でありましたが、今年は本市を含め、分散開催などで密を避け、様々な感染防止対策を講じて予定通り実施したところが多かったようです。当日のアトラクションでは、東京オリンピックで金メダルを獲得した日本ハムファイターズの伊藤大海選手からのビデオ応援メッセージなどもあり、内容に工夫を凝らした思い出深いイベントとなったのではないかと推察いたします。改めて、新成人の皆さんにお祝いを申し上げますとともに、8人の実行委員の皆さんにも感謝申し上げます。</p>
<p>本日午前中には、オンライン方式により今年初めての校長会議を開催しました。3学期は、卒業、進学、進級などにより児童生徒の心が大きく動揺する時期であり、対応する教員も生徒指導や進路指導などで緊張が続く時期でもあります。忙しさに追われての交通事故、違反、イライラしての体罰などの防止、更には入学願書など個人情報の管理の徹底、また通学路の安全確保などについて、校長に対し、教員の健康管理を含め、指導をお願いしたところです。</p>
<p>最後になります。今後の予定についてではありますが、明日21日に、地域経済対策</p>

<p>としてプレミアム付き商品券事業などの補正予算案の審議を行うため、今年2度目の市議会臨時会が行われます。本日の教育委員会議の日程変更もこのためであります。</p> <p>その後、2月17日から市議会定例会が予定されており、初日に私が教育行政執行方針の演説を行います。本日はこの後、その教育行政執行方針素案についての審議を行うこととなっておりますので、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。</p> <p>(一同「なし」の声)</p>
<p>5 議 案</p> <p>(五十嵐教育長) 本日は、議案の審議はございません。</p>
<p>6 報告・協議</p> <p>協議(1) 令和4年度教育行政執行方針(素案)について</p> <p>(教育部長) -令和4年度教育行政執行方針(素案)について説明-</p> <p>(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。</p> <p>(高橋委員) 全体案としての方針は、理解しましたが、新型コロナウイルスに関して、特に最近の感染状況をみると、低年齢化、施設内での感染が多くなっているというのを踏まえ、子どもたちに対する教え、学びが学校側で必要な気がしているのですが、そこについての考えが現時点であるのかないのか、教育行政執行方針の中に入</p>

れることかは分からないですが、もし考えがあればお聞かせください。

(教育部池田参事) 新型コロナウイルス感染症が、私たちの身近な生活に出てきたのが、令和2年の2、3月くらいでした。特に、令和3年度につきましては感染対策、指導を充実させるという意味で、令和3年度の教育行政執行方針の中にも盛り込んだということがあります。ただ、令和4年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の指導も含めて、健康教育の充実という意味で、6ページの9に盛り込んでいます。表現としては縮小されていますが、子どもたちに対する思いや、安心安全な学校づくりという意味では継続しているという思いです。以上です。

(高橋委員) 子どもたちが学校にいる時間は、もちろん教育や指導、適切な手洗い等をこれまでもやってこられたとっております。今、懸念されることは学校以外、生活習慣の内に入るかとは思いますが、どうしても子どもたちは、集まりたがりですし、話もしたが、触れたがるというのは避けられないということではあるのですが、そのことが起因となり、感染拡大が現状でははっきりと出てきているということを踏まえると、少なくともその辺に関する正しい知識をお伝えする機会を作ってもよろしいのかなと、私個人としては考えています。今後、先週、今週の爆発的な広がりがどういう方向に進むのか分からないのですが、是非、ご検討いただければと思います。

(五十嵐教育長) その他、委員の皆様からございますか。

(齋藤委員) 今回の教育行政執行方針を拝見させていただき、例年よりもシンプルかつ分かりやすく苦小牧市がどのような方針で活動していくかというのを、シンプルにまとめるということは難しいと思いますが、それがよくできていると思い、拝見させていただきました。大体のことは、何をするのか読むだけで分かりますが、ただ、その中で1点、先ほどの部長のご説明を聞くと理解したのですが、12ページの24「生涯学習の充実」の中で、「新たにセカンドブック事業に取り組み」という箇所がありますが、これを読んだだけでは「セカンドブック事業」が具体的にどういうことをするのか分かりませんでした。「赤ちゃん、絵本のとびら事業」は、赤ちゃんに絵本をプレゼントすると分かりますし、「ナナカマド教室」もある程度、市民の皆さん

に浸透していますので、皆さんイメージができると思いますが、「セカンドブック事業」は小学校1年生にというお話でしたので、そこを長く書くと方針の文章に合わないかもしれませんが、これを見た時に、小学校1年生に本をプレゼントする事業ということができるような文章を付け足すとよりよいのではないのかと思いましたが、いかがでしょうか。

(生涯学習課長) ありがとうございます。修正したいと思います。「赤ちゃん、絵本のとびら事業」も名前を付けていますが、もともとは「ファーストブック事業」という全国共通の事業があり、それを苫小牧独自にキャッチフレーズのようにつけたのが「赤ちゃん、絵本のとびら事業」でして、現在、「セカンドブック事業」としていますが、内部ではこれにキャッチフレーズのようなものをつけたいと思っています。聞いた方々が分かりやすくなるようなものをつけたいと思います。

(五十嵐教育長) その他、委員の皆様からございますか。

(岡田委員) 4ページの「教職員の資質向上」というところで、よく教育委員会や校長先生が書いている寄稿を読みますと、学校経営という言葉が出てきます。それがどういう意味なのか、私は初め少し抵抗を感じていました。教育が商売のように聞こえ、抵抗を感じていたのですが、よく考えてみると企業というのは、良い商品、良いサービスを売らないと潰れてしまう、消費者が満足するような商品、製品を売らないと会社は立ち行かなくなります。そうすると、学校における商品、サービスは、企業に対して何かというと、やはり、教育を受ける側の生徒、保護者の方が満足のいく教育を受けられるかどうか、というところが学校経営という意味に含まれているのではないかと私は考えております。教育に対する考えについて、全体に影響することかもしれませんが、受ける側の満足のいく教育環境や受け手側を考えた要素が入るといいのではないかと思います。

(教育部斎藤次長) まさに、学校教育、学校においては、子どもたち、保護者、場合によっては市民への満足を考えた経営方針を立てることが重要だと思っております。市の総合計画でも「義務教育の充実」という指標の中で、教育に対して満足している

かという質問がございまして、そこを高めていくということが必要と考えております。
全体を通して、そういった表現を上手く使えるかどうか、検討をしたいと思います。
(五十嵐教育長) 今回の素案の中では、学校経営という言葉は使用していませんよ。
(教育部斎藤次長) はい。使用していません。
(五十嵐教育長) その他、ございますか。
(佐藤委員) 文言についていくつか、よろしいでしょうか。斎藤委員からもご指摘があったとおり、非常にシンプルに分かりやすくまとめて下さりましたが、分かりにくい内容になっている部分もあるのではないかと思います。聞いている方または、読む方が理解しにくいような、具体的な言葉が少ないと相手の理解の仕方によってはこちらの気持ちが伝わりにくいのではないかとと思われる箇所がありましたので、教えていただきたいと思います。読んでいて必要な注釈が、最初の方にはいくつか書いてありますが、後半の方は、関係者の方は分かると思いますが、関係していない方は分からないような言葉には、注釈をつけていただけるとよろしいのではないかと思います。まず、2ページの1「小・中学校の一貫・連携した指導の推進」ですが、何のために教育があるのかというところにも繋がるかと思いますが、「目指す子ども像」という表現にしますと多様性の教育、また多様性を認めるというような言葉が今、使われているのと同様に、それも求められていることでもありますので、「目指す子ども像」と言い切るところは、なかなか理解されにくいのではないかなと思ながら読み進めておりました。また2「基礎学力の確実な定着」のところも、本市独自の学習調査を入れるのであれば具体的に入れるということもしていただくと、読んだ方も聞いた方も分かるのではないかと思います。また3ページ4「外国語教育の充実」のところでは、「授業の改善に努める」ということは、授業を変えるということになってきますが、そういうことではないと。要するに、先生方が力をつけて授業をしていくということですから、外国語教育の充実だとか、具体的にしてくださるともっと分かりやすいのではないかと思います。6ページの11「不登校児童・生徒へ

の支援の充実」の不登校対策モデル校ですが、これもコミュニティ・スクールに関しては具体的な中学校の名前が出ておりますが、不登校対策モデル校として、発表して差し支えないのであれば、ここも具体的に記載すると理解して下さるのではないかと思います。同時に、最近、小学校から高校まで広がっているヤングケアラーの問題が非常にクローズアップされ、注目されているように、不登校の問題を見つけて解決するという大事なところが抜けているかと思えます。教育行政執行方針の中には、不登校の児童生徒を学校に戻すということの前に、こういうことをするというを具体的に説明した方が、こちらが児童生徒のためにこういうことをしていくという気持ちが伝わるのではないかと思います。10ページの19「読書活動の充実」のところの「民間委託も視野」について、既に計画があるのであれば、分かっている範囲内で具体的に説明いただくとよろしいのではないかと思います。また、注釈については、12ページの「セカンドブック事業」のところと13ページの「演奏クリニック」についても、関わっている方は分かっているかとは思いますが、ただ読んでいてこれは何なのか、どういうことをするのだろうかという理解がなかなかしにくいと思います。具体的に付け加えられるところは付け加えていただいて、まずは「目指す子ども像」の定義も誤解が無いように説明を付け加えていただくとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

(教育部池田参事) 貴重なご意見ありがとうございました。より市民に分かりやすい内容、表現を検討していきたいと思えます。まず、ご質問に対するこの表現の意図から回答させていただきます。2ページ1「目指す子ども像」という表現ですが、画一的な子ども像を目指しているという意味ではなく、この激動の時代をたくましく生きていける資質を持った子どもたち、そういうような子どもたちを目指していきますという意味で「目指す子ども像」をイメージした学びの9年間をしっかりと小・中学校で育てていきたいと思いますという意味です。よりよい表現があれば検討しますが、これは全国的にも広がっている言葉でして、少し検討してみます。2ページの2、苫小牧独自の学力調査については、実施し結果の分析をしていますが、いろいろと長くなっ

てしまうので、「全国学力・学習状況調査等」という中に盛り込ませていただきました。それでは、分かりにくくなってしまうというご指摘かと思いますが、表現を検討させていただきたいと思います。

(佐藤委員) 私も、そうかと思いましたが、わかりました。

(教育部池田参事) 次に、3ページの4「外国語教育の充実」の中の「授業改善」という言葉ですが、教育現場の人間がより良い授業を目指し、日々授業を良いものにしていくという営みを一般的に私たちは授業改善と呼んでいます。劇的に授業が変わるということではなく、日々の教育技術の成長、進化という意味で「授業改善」と表現したということをご理解いただければと思いますが、もっと良い表現がないか検討していきたいと思います。6ページ11、不登校についてですが、不登校対策モデル校の具体的な学校名はあえて表現していません。それは、不登校対策モデル校2校、小学校1校、中学校1校ですが、実際に不登校が多い学校をモデル校とし、モデル的な取組をし、その取組を調査研究していくということですので、あえてオープンにしません。そこはご理解いただければと思います。不登校の原因となる問題を見つけ、解決していくという、そもそもの部分については、非常に勉強になりました。ご指摘をいただきありがとうございます。私からは以上です。

(佐藤委員) わかりました。いろいろ準備されていると思いますが、これから不登校対策モデル校について市議会等で質問された時も、今のように小学校1校、中学校1校とお返事をされるということによろしいですか。

(教育部池田参事) はい。

(五十嵐教育長) それでは、10ページの19、民間委託の部分について回答をお願いします。

(学校教育課長) 現在、小学校全校に学校司書を配置しており、中学校は苫小牧東中学校に苫小牧東小学校の司書を転員する形で配置しています。今、小学校に配置されている学校司書は、市の会計年度職員という身分です。民間委託については、中央図書館との連携というのが大元にあります。中央図書館と連携を図り、学校図書館を

活用しながら、教育における体制づくりが非常に大事になってきております。現在、中央図書館は指定管理者制度が入っていますが、指定管理者側に業務を委託できれば上手く連携が図れて、中学校にも学校司書の配置拡大をしていくことができるのではないかと考えています。中学校も学校図書館での貸出冊数が減少しているという実態もありますので、そういったところも改善していければと思います。中央図書館には専門的な知識を持った職員もおりますので、上手く連携を図ることができれば、より良い学校図書館の運営ができるのではと思っています。今、千歳市が民間委託を導入していますので、情報収集などを行っています。ただ、費用が発生しますので、予算の問題や効果なども調査をしている段階です。是非、中学校にも学校司書の配置を拡大し、中央図書館との連携を図りながら、専門的なノウハウを学校に伝えてもらい、より良い教育を受けられる環境づくりをしていきたいと思っています。少し抽象的な書き方になっていますが、まだ、具体的な中身までお示しできる段階ではないということでご理解いただければと思います。

(佐藤委員) 小学校だと、図書ボランティアなど、父兄の方の関わりも非常に多く、各学校と関わるということもあると思います。中学校になると極端に少なくなってしまふということもあるかと思うのですが、保護者のボランティアなど、皆さんお忙しいですから、なかなかお手伝いして下さる方も見つからないかもしれませんが、そういったボランティアの方も含めているのかと思いお伺いしました。ありがとうございます。

(五十嵐教育長) それでは、12ページの「セカンドブック事業」については、先ほど説明がありましたけれども、13ページの「演奏クリニック」について回答をお願いします。

(生涯学習課長) 指導者を呼んで楽器の演奏の指導を受けるという事業になります。こちらについては、注釈にするか文言を修正するか検討をさせていただきたいと思えます。

(五十嵐教育長) その他、委員の皆様から何かございますか。冒頭の日程の説明で

<p>も申しましたが、2月4日に予定している定例教育委員会議で最終的に決定したいと思</p>
<p>いますので、この後も、ご意見、質問等々、気が付いたところがありましたら、事</p>
<p>務局にご連絡いただければと思います。本日は、他にないでしょうか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょう</p>
<p>か。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>協議(2) 令和4年度苫小牧市学校教育力向上マスタープラン(素案)等</p>
<p>について</p>
<p>(教育部長) -令和4年度苫小牧市学校教育力向上マスタープラン(素案)等につ</p>
<p>いて説明-</p>
<p>(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。</p>
<p>(高橋委員) 3ページの「C4th」について、どういうものか分からないので教</p>
<p>えていただきたいです。また、4ページの「幼稚園等の接続ハンドブック」とあるの</p>
<p>ですが、それについてもどのような内容になっているのか教えていただけますか。そ</p>
<p>れに合わせて、4ページ右側の「幼稚園等の関係機関との連携の推進」の(2)「幼</p>
<p>稚園等との接続ハンドブック」という言葉と、教育行政執行方針の9ページに「苫小</p>
<p>牧市幼小接続ハンドブック」、若干、名称が違いますが、同じことを言っていると</p>
<p>いうことでよろしいでしょうか。</p>
<p>(教育部池田参事) まず、「C4th」についてですが、苫小牧市をはじめ、いろ</p>

<p> いろな都市で校務用に入っている共通の校務支援システムになります。苫小牧市では </p>
<p> C 4 t h というものを活用していき、そこに入れてあるものを市内の先生方がい </p>
<p> ろいろと活用できるようになっています。そこで道徳教育の様々な授業教材、資料を </p>
<p> 校務支援システムで活用し、それぞれ学校で活用しているということを表現しました。 </p>
<p> 現場の人間にはすぐわかる言葉になります。 </p>
<p> (高橋委員) データベースのようなものではないですか。 </p>
<p> (教育部桑島参事) 共通の教育フォルダがありまして、そこからデータを出すこと </p>
<p> ができたり、そこから子どもたちの出席管理ですとか、掲示板機能やいろいろな連絡 </p>
<p> 機能などがあり、そういったもので校務の削減化・効率化を図るというものです。子 </p>
<p> どもに関する指導要領などを格納したり、出欠席も集計されて自動で反映されるだど </p>
<p> か、そういった形で校務の軽減をしつつ、共有も図るというシステムです。 </p>
<p> (佐藤委員) 少し教えてください。そのシステムをダウンロードして各学校が自由 </p>
<p> に使えるということではないですか。学校単位で活用方法があるかと思うのですが、学校 </p>
<p> 単位でなく、個人の先生単位でできるのでしょうか。 </p>
<p> (教育部斎藤次長) 改めて、校務支援システムについて説明させていただきますと、 </p>
<p> 先生たちは前までは自分自身のパソコンを使い、自分でデータ、仕組みをそれぞれで </p>
<p> 持っていました。それを教員のパソコンを1人1台化した際に、校務支援システムと </p>
<p> いう北海道が推奨する、北海道全体で同じもの使うという仕組みでこの「C 4 t h」 </p>
<p> というシステムを入れることになりました。ダウンロードをして使用するというもの </p>
<p> ではなくポータルサイト上にすべてデータがあり、インターネットエクスプローラー </p>
<p> などで動く仕組みになっているものです。その中でデータが全て、共通のサーバーに </p>
<p> 保管され、みんなが見ることができ、メールのサービス、先ほど言っていた教務で使 </p>
<p> 用する成績の管理などいわゆる校務を全般的に支援するようなシステムを運用してい </p>
<p> まして、それを利用しているということです。 </p>
<p> (五十嵐教育長) 中身はそのようなことにはなりますが、「C 4 t h」という数字と </p>
<p> アルファベットの4文字だけの言葉では、一般の人には分かりづらいというのも確か </p>

であるとも思いましたので、例えば、校務支援システムという言葉の方が、そのようなシステムのことを言っていると伝わるのであれば、そのような表現にする方が良いのかなと思いました。「C4th」という表現のままでいいのかということは少し検討していただければと思います。「幼稚園等との接続ハンドブック」の説明についてもお願いします。

(教育部池田参事) 特別支援教育の連続性を考えた時に、幼稚園等と小学校1年生を接続していきながら引継ぎをしていくということで、その接続する時にこういうところに注意してください、というハンドブックを作成しました。例えば、成育歴やどういう指導をしてきたのかだとか、支援の計画をしっかりと引き継いでいくための分かりやすいマニュアル、ハンドブックのようなものを作成しましたので、それを基にしっかりと連携を深めていきたいという意味でした。

(高橋委員) 以前も同じようなお話が出ていて、それに基づいて行っているのだろうと理解はしているつもりです。ハンドブックにしたということは、おそらく個人が読み本として持っているのかなと。今はもっとシステム化し、対象者に対応する学校に対して、個人の情報を教えるというもっとシステムのようなものもあるかと思うのですが、ハンドブックだと個人でそれを活用するかしないかという判断になってくるかと思えます。そのあたりでハンドブックという物がどのようなものになっているのか気になりましたので質問させていただきました。

(五十嵐教育長) 先ほど、ご指摘いただいたように、教育行政執行方針の9ページ18「幼児教育との連携」の中にも「苫小牧市幼小接続ハンドブック」という表現になっていますが、表現の統一はした方がよろしいかと思えます。

(教育部池田参事) 確認しまして、揃えたいと思えます。

(五十嵐教育長) その他、委員の皆さんからございますか。

(齋藤委員) 4ページの幼小連携に関して、私からもお話させていただきたいです。まず、1点目、「エリア会議への幼稚園等の参加要請」について、以前も申し上げたかと思うのですが、もちろん、参加してくださいと要請することはとても大切だと思

いますし、まずそれが第一歩かと思うのですが、エリア会議の中身のあり方も考えていかなければいけないかと思えます。ただ、どういう文言でそれを伝えていけばいいのかということは、私も悩んでしまうのですが、参加を要請しつつ、今までのエリア会議を幼稚園、保育園を含めて行った結果の問題点、課題点がいろいろあるかと思うのですが、より良い中身のエリア会議になるように邁進していく、そういう側面の内容の文章があったらいいなと思えます。また、幼小連携で重要なことは、引継ぎが1番大きいと思えます。今年度、引継ぎのやり方を変えていますよね。今までは学校の先生が幼稚園に来て、学校毎で行っていたのを今回から変え、それはすごく大きな変化だと思います。来年度以降もそうなっていくかと思うのですが、今回、実施してみても、良い点悪い点、いろいろあるかと思うのですが、課題点などを見直し、より良い引継ぎを行っていくという中身があれば、「円滑な接続のため、幼小連携を進めます」というところに繋がるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

(教育部池田参事) まず、1点目「エリア内の幼稚園等の部会への参加要請」についてですが、以前にもご指摘をいただき、積極的に行っているエリアもあるのですが、そうでないエリアも結構あり、なかなか1つの目標、目的に向かって部会に参加できていなかったり、発達の段階も違うなどの問題点もあります。ですから、ここにしっかりと書いていくことが、現実的に難しい部分も正直あります。それも踏まえた上で、ここの表現の仕方やあり方を考えていきたいと思えます。また2点目のご指摘と直結するのですが、例えば幼・保・小・中との連携を考えた時に、例えば小学校、中学校はオンラインで行っていますが、幼稚園、保育園、小学校をスムーズに接続していく、繋がっていくということが非常に大事で、その中で齋藤委員ご指摘のとおり、引継ぎは非常に大切なものと考えております。そこで、次年度に入学する子どもの引継ぎについては、もう始まっているのですが、小学校の先生がいろいろな幼稚園や保育園を訪問するのではなく、小学校が1つの会場を提示して一堂に会しながら、小学校の先生がいろいろな幼稚園、保育園のお話を聞けるような場を提供していくという形に変えました。今年度に関しては、試験的な、今後を見据えた引継ぎのあり方を考えた一

<p>環ということですので、あえて大々的に書いていないのですが、1つ目のことを踏まえて、分かるような表現を考えていきたいと思います。</p>
<p>(齋藤委員) ありがとうございます。</p>
<p>(佐藤委員) 1点教えてください。4ページ「幼稚園等の関係機関との連携の推進」の(4)「特別支援学校との連携」というのは幼稚園等との関係機関だけということでしょうか。小中との連携は難しいのでしょうか。道の学校と市の学校で立場が違いますが、特別支援学校との連携は、これを拝見する限り、これから小学校にあがるという前提での位置づけだと思うのですが、学校にあがってしまっている小学校、中学校との連携は入らないという事でしょうか。北海道の立ち位置と市の立ち位置が違うということは分かるのですが、共通してお互いに何かできることがあるのかないのかいかがでしょうか。</p>
<p>(教育部齋藤次長) 特別支援学校との連携については、幼稚園等との接続という括りの中に入っています。小中学校と特別支援学校との連携というと、教育行政執行方針の4ページの5番になります。合同研修会を実施したり、教員同士、子どもたちとの交流ですとか、連携は当然これからますます展開していくというところであります。</p>
<p>(佐藤委員) わかりました。ありがとうございます。</p>
<p>(齋藤委員) 4ページ(3)「放課後等デイサービス事業所との連携の推進」とあるのですが、現在、放課後等デイサービスに通っているお子さんが増えており、事業所の数も増えています。学校や幼稚園が終わった後に通所する方が非常に増えている印象があるのですが、この連携の推進というのは、どのようなことをイメージしたらよいのでしょうか。学校の先生とデイサービスの先生が情報を共有するというのではなく、教育委員会と事業所を通しての取組なのか、それとも個々のお子さんの情報を共有しあい、そのお子さんの支援を良くしていくということでしょうか。どういう内容でしょうか。</p>
<p>(教育部池田参事) 放課後等デイサービス事業所と学校の先生方が子どもを通して連携をする場面もありますし、教育委員会を介して個々の放課後等デイサービスの事</p>

業所に情報提供をしていくという場面もあり、特に個々の子どもに関しては、先生と
放課後デイサービスが直接やり取りするイメージです。ただ、いろいろな取り巻く環
境や、例えば一斉休校になりますだとかは、私たちの方から関係機関にも連絡をしな
がら、より子どもたちのためにいろいろな情報提供をさせてもらっているという、広
い意味での連携となります。
(齋藤委員) わかりました。先ほど申し上げたとおり、現在、通所するお子さんの
数がとても増えていて、希望をしても入れないということを知りますので、これから
放課後等デイサービスの存在がますます大きくなっていくのではないかと私自身、実
感しておりました。ありがとうございます。
(五十嵐教育長) その他、ございませんか。
(佐藤委員) 先ほどの齋藤委員からの質問と同じかもしれませんが、4ページ「幼
稚園等の関係機関との連携の推進」の(4)「支援会議や事例研修会への参加要請」
というのは、幼稚園や保育園の関係者たちの出席を求めるといことでしょうか。
(教育部池田参事) 今年度から苫小牧支援学校が開校し、より専門的な知識や教育
の技術をもった先生が学校にいらっしゃるということで、様々な会議や研修会に来て
いただきご意見をいただいたり、研修会で講師をしていただいたり、そういう形で連
携を深めていきますという意味になります。
(五十嵐教育長) その他、ございませんか。
(高橋委員) 1ページの左下の一番上に書かれている「コミュニティ・スクール推
進」ですが、現段階の状況を分かれば教えていただきたいです。
(学校教育課長) コミュニティ・スクールの推進ですが、教育行政執行方針の中に
も、コミュニティ・スクールについて触れておりますが、現在、勇払中学校と開成中
学校区でコミュニティ・スクールを導入しています。令和5年度に全中学校区におい
て、コミュニティ・スクールの導入ができないかということで、まずは、地域の方に
説明をしなければならぬので、町内会連合会と市長の懇談会がありましたので、そ
の際に説明を行いました。また、コミュニティ・スクールが導入された際には、学校

<p>評議員の制度が無くなりまして、学校運営協議会クラブというのが正式名称なのですが、学校運営協議会の委員として学校評議員が移行しますので、そういった意味で、学校評議員の方にも説明が必要だということで、12月中旬にコロナ禍で対面でのお話をすることは出来なかったのですが、資料を提供する形で情報提供をしています。</p> <p>また、今ある中学校区生徒指導部連絡協議会、校区連という言い方をしていますが、その組織の構成メンバーとほぼ同じになりますので、同じような会合が何度もあることになってしまうので、この校区連をコミュニティ・スクールに移行させて一本化を図るということで、そうすると、地域の方も先生方も負担軽減に繋がります。そういった働きかけや情報提供を行いながら準備を進めている段階です。また校長会へも説明をしております、新年度から、おそらく4月の最初に評議員や校区連の方との会合の際に、令和5年度から全市で導入ができるように準備を進めていただきたいということで、情報提供する準備を進めている状況です。</p> <p>(五十嵐教育長) その他、ございませんか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>7 その他</p>
<p>(五十嵐教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。</p>

(一同「なし」の声)

8 委員会閉会の宣言（五十嵐教育長）・・・16時15分

以上のとおり会議の概要を記録し、その相違無いことを証するためここに署名する。